

〈顧問・部活動指導者のための手引書〉

生徒主体の部活動を行うために

はじめに

学校の部活動は、これまでスポーツや文化芸術に興味・関心を持つ生徒が自主的・自発的に参加し、顧問の指導のもと、学校教育の一環として行われてきました。

しかし、少子化や社会の変化により、これまでの体制で部活動を続けることは難しくなっています。特に、教員の専門性や個人の事情等、顧問を務める現状は、働き方改革が進む中で、さらに困難になっています。

こうした状況を踏まえ、本市では意見聴取や話し合いを重ね、昨年8月に開催した「部活動生徒代表者会議」の意見を踏まえて、「**持続可能な部活動のためには、生徒主体の活動とすることが必要**」としたところです。

ここで説明する生徒主体の活動とは

生徒が自ら考え主体的に行動できるような「生徒主体」の活動にしていくことです。

今後は、生徒主体の部活動を推進しながら、地域との連携を進め、教員の負担軽減も含めた部活動改革に取り組んでいくこととしました。**その第一歩として、生徒が主体的に取り組む力の指導・育成をサポートするため、本スライドを作成しました。**各学校で「生徒主体の部活動」を進める際の参考として、ぜひ活用してください。

「かわさき部活動ガイドライン」策定の趣旨

○生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会としての部活動について、将来に向けて安心して活動を続けられるようにすること。

○持続可能な部活動のために、生徒が自ら考え主体的に行動できるような「生徒主体」の活動にしていくこと。

○持続可能な部活動としていくため、地域と連携した部活動の在り方を検討していくこと。

○生徒が主体となる部活動とは **生徒自身が考えながら活動する**

・多様化している生徒一人ひとりの考えを尊重し、それぞれの思いを共有しながら、顧問(指導者)の**指導**のもと、生徒自身が考えて活動する部活動

○生徒が主体となる部活動にするためには **生徒自身が考えながら活動する環境をつくる**

・生徒一人ひとりの考えが尊重され、思いを共有する。
・生徒自身が考えて、みんなが納得感のある活動をする。
・顧問(指導者)は生徒が楽しく安全に活動できるようサポートする。

生徒が考える生徒主体の部活動とは

(部活動生徒代表者会議、各学校での意見から生徒の意見を抜粋)

小学生の体験部活動を企画する

どうやって楽しむか、取り組むかを**生徒自身が考える**

共通の目標と各自の目標を持つ

**勉強と部活動、メリハリをつけた活動をする
集中した練習が大切**

ミーティングを大切にすることで**一人ひとりの意見を部内に反映**することができる

顧問の先生やみんなで話し合う時間があると活動がしやすくなる

一人ひとりの部活動に対しての思いを知る必要がある。それを知ったうえで**チームでの目標を決め、チームで団結**していくことができる

ミスをして**励ましあう**

部員などが練習メニューを考えられる部活がいい

顧問から指導されたことや用意されたことだけでなく、**生徒自身が自ら考え活動を作り上げる**

仲間の意見をまとめることが難しいが、**言いやすい環境や相談できる部**にしていく

活動だけでなく準備や片づけをもっと**テキパキ**できるようにすると**充実度が増す**

勝ち負けよりも部員が**楽しいと思えるような雰囲気**づくりが大切

学習指導要領における部活動の位置付けと部活動に求められていること

【中学校学習指導要領総則（平成29年7月）文部科学省】

教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の**自主的、自発的な参加**により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、**学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等**、**学校教育が目指す資質・能力の育成**に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図れるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

【中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成29年7月）文部科学省】

中学生の時期は、生徒自身の興味・関心に応じて、教育課程外の学校教育活動や地域の教育活動など、生徒による**自主的・自発的な活動が多様化していく段階**にある。少子化や核家族化が進む中であって、中学生が学校外の様々な活動に参加することは、ともすれば学校生活にとどまりがちな生徒の生活の場を**地域社会に広げ、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える機会**となることも期待される。このような**教育課程外の様々な教育活動を教育課程と関連付けることは、生徒が多様な学びや経験をする場や自らの興味・関心を深く追求する機会などの充実につながる。**

ア 部活動

特に、学校教育の一環として行われる部活動は、**異年齢との交流**の中で、生徒同士や教員と生徒等の**人間関係の構築を図ったり**、生徒自身が活動を通して**自己肯定感を高めたり**するなど、その**教育的意義が高い**ことも指摘されている。

そうした教育的意義が**部活動の充実のみで図られるのではなく**、例えば、運動部の活動において保健体育科の指導との関連を図り、競技を「**すること**」のみならず、「**みる、支える、知る**」といった視点からスポーツに関する**科学的知見**やスポーツとの**多様なかわり方**及びスポーツとの**豊かなかわり方を学ぶ**など、教育課程外で行われる部活動と**教育課程内の活動との関連を図る**中で、その**教育効果が発揮される**ことが重要である。

学習指導要領における部活動の位置付けと部活動に求められていること

【文化部活動の地域移行に関する検討会議提言 第8章 1（1）現行の中学校学習指導要領の総則に基づく適切な部活動の運営（令和4年8月）文化部活動の地域移行に関する検討会議】

①現状と課題（一部抜粋）

中学校学習指導要領においては、「教育課程との関連が図られるよう留意すること」とされており、文化部活動は、特に教科の音楽や美術との関連が図られる必要がある。現行の中学校の音楽科においては、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を、美術科では、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指している。

②求められる対応（一部抜粋）

文化部活動においては、生徒一人一人が生活や社会の中の芸術や芸術文化と主体的に関わることができるように、学校内及び学校外における文化芸術活動とのつながりを意識することができるようにしたり、地域の実態に応じて、文化施設等との連携を図ったり、積極的に活用したりすることなどにより、どの生徒でも参加しやすい活動内容や活動時間等とするなどの工夫を行うこと

【部活動改革に伴う学習指導要領解説の見直し（令和6年12月）文部科学省】

〈運動部の活動〉

運動部の活動は、スポーツに興味と感心をもつ同好の生徒が、スポーツを通して交流したり、より高い水準の技能や記録に挑戦したりする中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を経験する活動であるとともに、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動である。

したがって、レクリエーション志向の生徒や、運動が苦手な生徒、障害のある生徒など、どの生徒でも参加しやすい活動内容や活動時間等としたりするなどの工夫を行い、生徒が運動部の活動に積極的に参加できるよう配慮するとともに、複数のスポーツや文化・科学分野等の様々な活動も含めて幅広く経験できるよう配慮することが大切である。

また、生徒の能力等に応じた技能や記録の向上を目指すとともに、互いに協力し合って友情を深めるなど好ましい人間関係を育てるよう適切な指導を行う必要がある。さらに、運動部の活動も学校教育活動の一環であることから、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた視点も参考に指導を行うことが大切である。

部活動の指導におけるポイント

point

自主的・自発的な参加により行われる部活動は、学習意欲の向上、責任感、連帯感の涵養を目指すもの
中学生の時期の多様な学びや経験、自らの興味や関心の追求、人間関係の構築、自己肯定感を高めること、スポーツに関する科学的知見や多様な関わり方を学ぶなど、教育効果が発揮されることが重要

point

これまでの運動部活動は、その多くが、競技を「すること」に焦点を当てて取り組んできているが、今後は、スポーツをはじめ、文化、科学等それぞれの分野において、「する」ことはもとより、その他にも「みる」「支える」「知る」ことも重視し、生涯にわたる豊かな関わり方について指導していくことが重要

point

文化部活動においては、生徒が生活や社会の中の芸術や芸術文化と主体的に関わることができるように、学校内及び学校外における文化芸術活動とのつながりを意識、地域の実態に応じて、文化施設等との連携を図ることが必要

point

様々な状況にあるどの生徒でも参加しやすい活動の工夫を行い、生徒の能力等に応じた技能や記録の向上を目指すとともに、互いに協力しあって友情を深めるなど好ましい人間関係を育てるよう適切な指導を行う必要がある、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた7視点も参考に指導を行うことが大切

生徒主体の部活動(教員の取組)

1 生徒自身が部活動の目的や意義を理解できるようにする

2 同じ活動を行う仲間と個人の目標を共有し、共通の目標を持って尊重しあいながら活動できるようにする

3 話し合いの機会を定期的に持ち、自分の思いや考えを共有しながら、互いを理解し、解決策を考えていけるようにする

4 活動を振り返り、課題や解決策など探り、今後の活動予定や練習メニューを生徒自身が考えられるようにする

5 生徒自身が考えた振り返りや今後の見通しの方向性があるかどうか、一緒に考え、アドバイスをしたり、改善したりする

今後の各学校の取組に向けて(教員の取組)

(参考) 運動部活動での指導のガイドライン平成25年5月 文部科学省(抜粋)

実際の活動での効果的な指導に向けて

適切な指導方法、コミュニケーションの充実等により、生徒の意欲や自主的、自発的な活動を促しましょう

○科学的裏付け等及び生徒への説明と理解に基づく指導の実施

○生徒が主体的に自立して取り組む力の育成

○生徒の心理面を考慮した肯定的な指導

○生徒の状況の細かい把握、適切なフォローを加えた指導

○指導者と生徒の信頼関係づくり

○上級生と下級生、生徒の間の人間関係形成、リーダー育成等の集団づくり

○事故防止、安全確保に注意した指導

〈生徒が主体的に自立して取り組む力の育成〉

個々の生徒が、技能や記録等に関する自分の目標や課題、運動部活動内での自分の役割や仲間との関係づくり等について自ら設定、理解して、その達成、解決に向けて必要な内容や方法を考えたり、調べたりして、実践につなげる、また、生徒同士で部活動の方向性や各自の取り組み姿勢、試合での作戦や練習にかかる事柄等について、筋道立てて話し合う活動などにより目標達成や課題解決に向けて必要な取組を考え、実践につなげるというような生徒が主体的に自立して取り組む力を、指導者は、指導を通して発達の段階に応じて育成することが重要です。

教育課程の各教科等での思考力・判断力・表現力等の育成とそのため言語活動の取組と合わせて、運動部活動でも生徒が主体的に自立して取り組む力の育成のため言語活動に取り組むことが考えられます。

今後の各学校の取組に向けて (生徒主体の部活動PDCAサイクル(例))

P : Plan (計画) — 今年度のめざす姿をつくる

① 年間目標の設定

- 「勝利」だけでなく、**安全・健康・学習との両立・仲間づくり**など多面的な目標にする
- (例) 毎月1回「ふり返しミーティング」を実施する
生徒のけがゼロを目指す
活動日を週5→週4に調整し、学習時間を確保
公式戦ベスト4 など

② 活動計画の作成

- 年間スケジュール (大会・練習試合・休養日)
- 月ごとのテーマ
(例) 基礎体力・戦術理解・チームビルディング
- リスクマネジメント (安全管理計画)
- 部員・顧問の役割分担

D : Do (実行) — 計画した活動を安全に実施

① 日常の活動

- 週の活動計画に基づいて安全に練習を行う
- 部員の健康・疲労チェック
- 参加・欠席の記録
- 活動場所の安全点検

② 生徒主体の動きを取り入れる

- ミーティングの進行を生徒に任せる
- 練習メニューの一部を生徒が作成する
- 練習中は過度に支持をせず、生徒同士の気づきを大切にする
- 必要な係を考え役割を持つ (記録係・救急係・用具係など)

C : Check (評価) — 現状を客観的にふり返る

① 定期的なふり返し

- 毎月または大会後にミーティング
- 良かった点・改善点を共有
- 目標に対する到達度を確認 (勝敗以外も)

② データを使った振り返り

- けがの頻度
- 参加率
- 練習時間、負荷のバランス
- 生徒アンケート (練習の質・量、負担感、楽しさ、学習との両立)

A : Act (改善) — 次の一手を決める

① 改善策を決定

- 練習メニューの見直し
- 活動日の調整 (増やす・減らす)
- 部内の役職再配置
- 生徒への支援 (学習サポート、メンタルケアなど)

② 次のPlanに反映

- 着手する改善点を絞ることで、**教員の負担を増やさずに前進**できる
- 生徒にも「自分たちの提案が反映されている」と実感を提供

◎活動する際に気を付けるポイント

顧問一人で抱え込まない⇒ 情報共有を学年や管理職と行う 他部活の顧問との連携・外部コーチの活用等

今後の各学校の取組に向けて(まとめ)

主体性のキーワード

選択、判断、振り返りのキーワードが主体性を育む基本です。これらを意識して活動を設計しましょう。

問いかけの重要性

「あなたならどうする？」と問いかけ、生徒の思考と主体性を促します。

振り返りの実践

活動後の簡単な振り返りで学びを定着させ、主体的な行動を強化します。

指示から問いへの転換

指導者は指示を減らし、問いを増やすことで主体性を育てる環境を作ります。

